

平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年2月13日

上場会社名 株式会社新潟放送 上場取引所 大
 コード番号 9408 URL http://www.ohbsn.com
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 竹石 松次
 問合せ先責任者 (役職名) 経営管理局长 (氏名) 赤塚 幸 (TEL) 025-267-4111
 四半期報告書提出予定日 平成25年2月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	14,507	7.0	△62	—	△33	—	6	—
24年3月期第3四半期	13,556	△3.2	△260	—	△230	—	△260	—

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 △168百万円(—%) 24年3月期第3四半期 △360百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	1.02	—
24年3月期第3四半期	△43.38	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第3四半期	20,338	12,615	56.0
24年3月期	20,299	12,687	56.6

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 11,398百万円 24年3月期 11,481百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	5.00	—	5.00	10.00
25年3月期	—	5.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	20,946	4.4	627	92.3	651	81.8	315	687.5	52.50

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 1社(社名) 株式会社ITスクエア、除外 1社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期3Q	6,000,000株	24年3月期	6,000,000株
② 期末自己株式数	25年3月期3Q	640株	24年3月期	640株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期3Q	5,999,360株	24年3月期3Q	5,999,376株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ではありますが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P3「(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

平成25年3月期の個別業績予想（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	6,670	2.1	357	181.1	200	669.2	33	34

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項については、添付資料P3「(3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) セグメント情報等	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
(6) 重要な後発事象	10
5. (参考) 個別業績の概要	10
(1) 個別経営成績	10
(2) 個別財政状態	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要などを背景として、緩やかな回復の動きはみられたものの、長引く欧州債務危機や中国の景気減速など対外経済環境をめぐり依然として先行き不透明な状況で推移しました。また、個人消費におきましても国内の景気や雇用に対する不安感などから予断を許さない状況が続きました。

放送業界におきましては、震災による広告の落ち込みから、徐々に回復したとはいえ、夏以降、企業収益の悪化等を背景に広告需要が弱まりました。

また、情報サービス業界におきましても、企業による情報システムへの投資計画の縮小など、依然としてIT投資抑制傾向にありました。

このような状況のなかで、それぞれ異なる分野で事業活動を展開する当社グループは、各事業部門において積極的な営業活動とサービスの提供に努め、当第3四半期における連結売上高は145億7百万円（前期比107.0%）となり、前年同期に比べ9億5千1百万円の増収となりました。一方で、営業費用は前年同期に比べ7億5千3百万円増加し、利益面におきましては、営業損益は6千2百万円の損失計上（前期は2億6千万円の損失計上）、経常損益は3千3百万円の損失計上（前期は2億3千万円の損失計上）となり、四半期純利益では6百万円の利益計上（前期は2億6千万円の損失計上）となりました。

事業の部門別の概況は次のとおりであります。

放送事業におきましては、放送収入では、広告メディア選別の動きなどから、ラジオが前年を下回りました。テレビも秋以降、大手スポンサーを中心に広告需要が弱含みに推移し、テレビスポットが低迷しましたが、創立60周年記念番組のセールスに全社を挙げて取り組んだことなどから、ほぼ前年並みとなりました。その他収入では、創立60周年記念の各種事業を展開したことなどにより、前年実績を上回りました。一方で、営業費用におきましては、全社的にコスト削減に努めました。

この結果、当第3四半期累計期間の売上高は49億3百万円（前年同期比100.5%）となり、営業利益は2億2千万円の計上（前期同期は3千3百万円の損失計上）となりました。

情報処理サービス事業におきましては、東日本大震災で停滞していた自治体の予算執行が例年並みに戻ったことや、学校関連の大型の機器更新が受注できたことなどにより、営業収入は前年を上回りましたが、収入増に伴い売上原価が増加したほか、入札案件が増えたことなどから利益面では厳しい状況が続きました。

この結果、当第3四半期累計期間の売上高は82億6千1百万円（前年同期比112.4%）となり、営業損益では3億円の損失計上（前年同期は2億4千1百万円の損失計上）となりました。

ホテル及び飲食事業におきましては、新潟市内におけるホテル間の競争が依然として厳しいなか、インターネットによる個人の宿泊客が前年実績を上回りました。また、販売力を強化し、スポーツイベントに出店するなどの積極的な展開により外部販売が増加しました。

この結果、当第3四半期累計期間の売上高は9億2千4百万円（前年同期比104.4%）となり、営業損益では1千3百万円の損失計上（前年同期は3千1百万円の損失計上）となりました。

建物サービスその他事業におきましては、施設管理部門において大型の機器工事を受注できましたが、メディア部門では予定していたイベントが実施できなかったほか、不動産部門で駐車場収入が減少しました。

この結果、当第3四半期累計期間の売上高は8億9百万円（前年同期比100.1%）となり、営業利益は3千万円の計上（前年同期比69.4%）となりました。

（2）連結財政状態に関する定性的情報

財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産は203億3千8百万円となり、前連結会計年度末と比較して3千9百万円増加いたしました。

資産の部では、流動資産が88億6千4百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億1千9百万円増加しております。これは主に受取手形及び売掛金が17億1千3百万円減少したものの、現金及び預金が8億8千5百万円、たな卸資産が8億2百万円、その他の流動資産が1億5千4百万円増加したことなどによります。固定資産では、114億7千4百万円となり、前連結会計年度末に比べて1億7千9百万円の減少となりました。これは主にリース資産が2億9千9百万円、その他の投資およびその他の資産が1億3千1百万円増加したものの、有形固定資産その他が1億4千1百万円、無形固定資産が1億6千1百万円、投資有価証券が2億2千万円減少したことなどによるものであります。

負債の部では、流動負債が48億1千1百万円となり、前連結会計年度末に比べて7千7百万円減少しております。これは主に賞与引当金が1億3千万円減少したことによるものであります。固定負債は29億1千2百万円となり、前連結会計年度末に比べて1億9千万円の増加となりました。これは主にリース債務が2億1千万円増加したことによります。

純資産の部では、その他有価証券評価差額金の減少1億1千万円、利益剰余金の増加2千7百万円、少数株主持分の増加1千万円により126億1千5百万円となり、前連結会計年度末に比べて7千2百万円減少いたしました。以上の結果、自己資本比率は56.0%となり、前連結会計年度末に比べて0.6ポイントの減少となりました。

（3）連結業績予想に関する定性的情報

第4四半期以降の見通しにつきましては、政権交代に伴う経済政策への期待から円安、株高が進むなど、個人消費や企業マインドも改善へと向かう兆しも見られるものの、電力不足問題など、先行きに関しては不透明感が拭い去れず、楽観視はできない状況と思われまます。

このような景気見通しのなかで、当社グループは、各事業部門において今まで以上に積極的、かつ、きめ細かな営業活動とサービスの提供に努め、収益の確保に傾注するとともに、引き続き、各事業部門において、さらなるコストの削減を図ります。

以上の見通し及び方針に基づき、連結業績予想につきましては、現時点において平成24年5月14日に公表いたしました「平成25年3月期の通期業績予想」の予想数値を修正しておりません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

第1四半期連結会計期間より、重要性が増した株式会社ITスクエアを連結の範囲に含めておりません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,700,789	3,585,999
受取手形及び売掛金	4,814,851	3,101,499
有価証券	246,125	231,122
商品	90,803	581,214
原材料	11,851	14,567
仕掛品	221,140	530,106
繰延税金資産	180,637	283,221
その他の流動資産	390,101	544,944
貸倒引当金	△11,307	△8,319
流動資産合計	8,644,993	8,864,357
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,364,836	3,284,625
土地	2,324,664	2,312,815
リース資産（純額）	886,023	1,185,332
その他（純額）	1,007,540	866,143
有形固定資産合計	7,583,066	7,648,918
無形固定資産		
投資その他の資産	435,912	274,634
投資有価証券	1,837,205	1,616,897
繰延税金資産	977,124	978,675
その他の投資及びその他の資産	863,889	995,599
貸倒引当金	△43,185	△40,097
投資その他の資産合計	3,635,033	3,551,075
固定資産合計	11,654,012	11,474,628
資産合計	20,299,006	20,338,985
負債の部		
流動負債		
未払金	2,704,668	2,779,506
短期借入金	1,173,640	1,074,140
未払法人税等	37,054	51,139
賞与引当金	395,352	265,302
その他の流動負債	578,116	640,926
流動負債合計	4,888,831	4,811,015
固定負債		
長期借入金	1,204,230	1,202,250
リース債務	652,628	863,445
退職給付引当金	344,004	334,709
役員退職慰労引当金	259,922	268,196
アナログ放送設備解体引当金	36,520	40,697
その他の固定負債	225,117	203,472
固定負債合計	2,722,424	2,912,771
負債合計	7,611,256	7,723,787

（単位：千円）

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	300,000	300,000
資本剰余金	5,750	5,750
利益剰余金	11,284,904	11,312,805
自己株式	△444	△444
株主資本合計	11,590,210	11,618,111
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△108,838	△219,469
その他の包括利益累計額合計	△108,838	△219,469
少数株主持分	1,206,378	1,216,556
純資産合計	12,687,749	12,615,198
負債純資産合計	20,299,006	20,338,985

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	13,556,058	14,507,390
売上原価	10,036,473	10,809,615
売上総利益	3,519,584	3,697,774
販売費及び一般管理費	3,779,706	3,760,510
営業損失(△)	△260,122	△62,735
営業外収益		
受取利息	1,287	1,973
受取配当金	31,264	41,402
受取賃貸料	6,585	5,873
その他	20,610	14,253
営業外収益合計	59,747	63,503
営業外費用		
支払利息	28,114	28,278
その他	1,704	5,705
営業外費用合計	29,819	33,984
経常損失(△)	△230,193	△33,215
特別利益		
固定資産売却益	78,713	39,325
投資有価証券売却益	1,062	1,481
その他	14,427	2,266
特別利益合計	94,203	43,073
特別損失		
固定資産除却損	20,729	11,117
アナログ放送設備解体引当金繰入額	40,640	29,330
その他	20,808	668
特別損失合計	82,178	41,115
税金等調整前四半期純損失(△)	△218,169	△31,257
法人税等	109,474	26,453
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△327,643	△57,711
少数株主損失(△)	△67,362	△63,803
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△260,280	6,091

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△327,643	△57,711
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△32,427	△110,711
その他の包括利益合計	△32,427	△110,711
四半期包括利益	△360,070	△168,423
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△292,574	△104,538
少数株主に係る四半期包括利益	△67,496	△63,884

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注2)
	放送事業	情報処理サ ービス事業	ホテル及び 飲食事業	建物サービ スその他事 業	計		
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上高	4,787,490	7,299,829	870,014	598,723	13,556,058	—	13,556,058
(2) セグメント間の内 部売上高又は振替 高	90,949	51,987	15,470	210,090	368,497	△368,497	—
計	4,878,440	7,351,817	885,484	808,813	13,924,555	△368,497	13,556,058
セグメント利益又は損失 (△)	△33,517	△241,220	△31,578	43,418	△262,896	2,774	△260,122

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注2)
	放送事業	情報処理サ ービス事業	ホテル及び 飲食事業	建物サービ スその他事 業	計		
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上高	4,810,944	8,210,543	908,317	577,585	14,507,390	—	14,507,390
(2) セグメント間の内 部売上高又は振替 高	92,884	51,288	16,457	231,815	392,445	△392,445	—
計	4,903,828	8,261,831	924,775	809,401	14,899,836	△392,445	14,507,390
セグメント利益又は損失 (△)	220,437	△300,954	△13,785	30,114	△64,188	1,452	△62,735

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) 重要な後発事象

該当事項はありません。

5. (参考) 個別業績の概要

平成25年3月期第3四半期の業績（平成24年4月1日～平成24年12月31日）

(1) 個別経営成績

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	4,903	0.5	220	—	277	—	153	—
24年3月期第3四半期	4,878	△7.6	△34	—	16	△90.4	△95	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	25 56	—
24年3月期第3四半期	△15 88	—

(2) 個別財政状態

	総資産	純資産
	百万円	百万円
25年3月期第3四半期	11,053	9,293
24年3月期	11,210	9,310